山口大学医学部附属病院

呼吸器・感染症内科

【診療科(部)の特色】



当科は「呼吸器」と「感染症」の 2 つの領域を併せ持つ講座です。気管支喘息・COPD などの common disease から、肺癌・間質性肺疾患、抗酸菌症・真菌症を含む呼吸器感染症まで、若年者から高齢者・急性期から慢性期までを幅広くカバーします。臨床の基礎を固めながら専門家としての力を磨けること、そして日常診療で生じる臨床的疑問（clinical question）を創造的な研究へと発展させられることが当科の特色です。臨床から研究まで、将来の医療に貢献できる人材を育成します。

【研修内容】

主に入院症例の担当医として、診断・病態・治療を実践的に学び、全人的な診療の姿勢を身につけていただきます。診療はチーム制を基本とし、毎朝の回診では身体診察やプレゼンテーションのトレーニング、検査結果の解釈、治療方針の確認などを、上級医の指導のもとでディスカッションしながら進めます。重要な治療方針は科全体のカンファレンスで検討しており、十分な準備のうえでプレゼンテーションを担当していただきます。立場の上下にかかわらず率直に意見を交わせることが当科の魅力であり、日々の診療そのものが学びの場となっています。

対象疾患は肺癌、呼吸器感染症、COPD・喘息などの閉塞性肺疾患、びまん性肺疾患など多岐にわたり、急性期から慢性期まで、他科と緊密に連携しながら診療にあたります。呼吸器内科以外を志望される方にとっても、異なる視点から学びを深めていただける環境です。

扱う疾患の特性上、高齢の患者さんが多いことも当科の特徴です。Advance Care Planning（ACP）では患者さんやご家族との丁寧な話し合いが欠かせませんが、こうした場面もともに経験しながら学んでいただければと思います。

何よりも大切なのは、『主治医チームの一員として』主体的に一人ひとりの患者さんに向き合う姿勢です。

研修を通じて内科専門医、さらに呼吸器専門医の取得へと段階的に歩みを進められるよう、指導医が責任を持って支援します。皆さんが当科で研修されることを、心よりお待ちしております。

【研修目標】

当科が対象とする疾患は、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、胸部悪性腫瘍、間質性肺疾患、肺循環障害、睡眠呼吸障害、そして抗酸菌症・真菌症を含む呼吸器感染症まで、非常に幅広い領域にわたります。

当科が強みとする精密な呼吸機能検査では、スパイロメトリーに加え、呼気一酸化窒素（FeNO）測定やモストグラフなどを用いて、呼吸機能を多角的に評価する力を身につけられます。

さらに、EBUS-TBNA やクライオバイオプシーなどの気管支鏡診断・治療、重症喘息に対する生物学的製剤、肺癌のがんゲノム医療といった先進的な診療にも携わることができます。

当科での研修では、胸部 X 線・胸部 CT などの画像所見、血液生化学データ、呼吸機能検査などの生理学的データを論理的かつ統合的に組み合わせ、確かな診断にたどり着く力を養うことを目標とします。

呼吸器病態学は幅広い領域ですが、大学病院では多様な患者層から網羅的に症例を経験でき、一人ひとりに当科の指導医がマンツーマンで丁寧に指導します。

呼吸器内科は他の診療科との接点も非常に多いため、将来どの科に進まれる方にとっても、当科での研修はきっと大きな糧となるはずです。

【研修１週間スケジュール例】

	午前	午後
月曜日	病棟診療	気管支鏡検査
火曜日	病棟診療	症例カンファレンス、抄読会
水曜日	病棟診療	気管支鏡検査、胸部カンファレンス
木曜日	病棟診療	病棟業務
金曜日	病棟診療	気管支鏡検査

【キャリアパス】



【指導医からのコメント　浅見麻紀先生（2003 年卒業）】



臨床の基本はベッドサイドにあります。患者さん一人ひとりと向き合い、多くの気づきを積み重ねることが、呼吸器内科医としての成長につながると私たちは考えています。当科では、経験年数に関係なく活発なディスカッションを行い、若手医師も安心して意見を発信できる環境を大切にしています。気管支鏡、EBUS、局所麻酔下胸腔鏡、クライオ生検など専門的手技を経験豊富な指導医のもとで学び、喘息・COPD、間質性肺炎、肺癌、感染症まで幅広い診療を経験できます。専門医取得はもちろん、臨床研究や大学院進学、多職種・他科との連携を通じて、臨床力と研究力を磨ける環境です。「しっかり診療を学びたい」「呼吸器内科を極めたい」という熱意を持つ皆さんを、私たちは全力でサポートします。ぜひ一度見学にお越しください。

【先輩(若手医師)からのコメント　藤井哲哉先生（2019 年卒業)】



私自身、呼吸器内科を選んだのは、一つの分野を突き詰めるだけでなく、感染症から悪性腫瘍まで幅広く診療に関われる点に惹かれたためです。また専攻医として研修する中で、気管支鏡検査などの手技と、画像所見や呼吸機能検査を読み解く内科的な診断力の両方をバランスよく学ぶことができ、どちらかに偏ることなく身につけられる点は、この科ならではの魅力だと感じています。当科はチーム制で、上級医からマンツーマンに近い形で指導を受けられ、カンファレンスでは若手も率直に意見を交わせます。内科専門医を取得した後、現在は呼吸器専門医の取得に向けて準備を進めていますが、症例の偏りなく幅広く経験できる環境が支えになっています。呼吸器内科に興味のある方は、ぜひ一度見学にいらしてください。

【お問い合わせ先】

山口大学医学部附属病院　呼吸器・感染症内科医局　大石 景士（医局長）

Tel：0836-85-3123 E-mail：kokyuki@yamaguchi-u.ac.jp　Website：https://www.kokyuki-yamaguchi-u.jp/